

Q. 外壁の塗装が劣化してきたので、塗り替えをしたい。届け出は必要？

A. 塗り替えをする建物が、届け出を要する規模を超える場合は原則、届け出が必要です。外壁の素材や塗料は経年劣化により退色しているため、同色であっても塗り替えを行うことで景観に影響する可能性があるからです。
ただし、従前と同じ色彩へ塗り替える面積が10㎡以下の場合または、既存の外壁が色彩基準値範囲内であり、かつ色相(色み)の変更が無く、明度(明るさ)および彩度(鮮やかさ)が同程度の色彩に塗り替える場合は届け出不要です。

※従前と同じ色彩とは次に掲げるものをいいます。

- ・現状の経年劣化による色彩
- ・前回塗装時の記録がある場合、前回塗装を行った際の色彩



☆鳥羽市景観計画は運用するだけで計画が実現するものではありません。地域住民や事業者のみなさんが、より良好な景観の形成に積極的に取り組んでいく意識を持っていただくことが大切です。景観の届出対象外になる行為であっても、景観への配慮にご協力をお願いします。

具体的な配慮の例

- 豊かな自然の色彩を尊重し、建築物などの色彩は周囲の自然になじむ色彩を基本とする。
- 観光地としてのにぎわいを考慮しつつも、まちなみとしての連続性や、まとまりある景観としての一体性を考慮し、景観から突出した色彩を抑制する(図①)。
- 周辺の自然やまちなみのほか、より広域的な眺望を考慮し、鳥羽湾や島々の開放的な眺望景観がいっそう引き立つ色彩を基本とする。
- アクセント色は景観形成基準に記載されている範囲内で、できる限り低い位置に使用するとともに、建物全体の色彩や装飾と調和するものとする(図②)。

※くわしくは市ホームページ建設課まちづくり整備室に届け出の手引きや、景観形成基準解説書を掲載しておりますので、ご覧ください。



「かもめ」はこれまでも、鳥羽の子どもたちや地域住民のみなさんに公民館などでカレライスをふるまう活動を続けてきており、今回その舞台が鳥羽高校になったというわけです。そこで鳥羽高校では、生徒のみなさんに馴染んでもらえるよう「ほっとばカフェ」という愛称をつけ、当日は30人を超えるお客さん(生徒や先生)がカレライスとその場の「時間」を楽しんでいました。カレライスという食べ物がかきつけとなり、普段はつながらない「地域の大人、学校、生徒、先生たち」がつながったその居場所は、とてもすてきな空間でした。



こうやって、挑戦し行動する大人たちが自分(生徒)たちの今すぐ近くにいること、またこれから先、もしもそんな大人たちが鳥羽にいたことを思い出すきっかけになるとすれば、ほっとばカフェという居場所づくりは、鳥羽にとって大変価値のある郷土愛を育む学びにもつながっていくと感じました。

4月22日、三重県立鳥羽高等学校(以下鳥羽高校)の調理室で、子ども食堂「かもめ」(以下「かもめ」)によるカレライスのふるまいが行われました。

キーワード
#ほっとばカフェ
#郷土愛を育む居場所づくり

今回の「ほっとばカフェ」の開催は、鳥羽高校と「かもめ」の大人たちが、学校と子どもたちのために真剣に話し合い、悩み、行動するという挑戦をしたからこそ生まれた結果です。そして、この新たな一歩があったことで「ほっとばカフェ」は今後も継続的に開催していく事が検討されるようになりました。

とばびと
活躍
プロジェクト

トバゴト

Vol.16



トバゴトQRコード

健康福祉課長寿介護係
(生活支援コーディネーター) 杉浦徹

☎ 25 1186